

疾患名

ドナー特異的同種抗体陽性腎移植

病気について

生体腎移植では、腎臓を提供されるレシピエントの血液中（血漿中）に、腎臓を提供するドナーの白血球の型であるHLA（human leukocyte antigen）に対する抗体が認められる場合があります。これをドナー特異的同種抗体（donor-specific antibody; DSA）と呼びます。レシピエントの妊娠、輸血、過去の移植などが原因とされています。この場合には、移植後に拒絶反応（抗体関連拒絶）をきたし、移植された腎臓の機能が低下・廃絶する原因となります。このため、移植前にレシピエントの血液の中にあるDSAを除去する脱感作が行われます。また術後に抗体関連拒絶を生じた場合にも同様にDSAの除去が行われます。拒絶のリスクを下げるため、アフェレシスによる脱感作が行われます。

治療について

腎移植に用いられる免疫抑制薬のほかに、リツキシマブという抗体産生を抑える点滴薬、ガンマグロブリン製剤の点滴静注とともに、抗体を除去するために血漿交換療法が用いられます。

アフェレシス療法の適用とその実施

保険適用：なし

アフェレシス治療の種類：二重濾過血漿分離交換（DFPP）、血漿交換（特に術後は出血の可能性が高まるため、新鮮凍結血漿を補充液とした単純血漿交換が行われます）、選択的血漿交換

回数：ABO不適合腎移植に従い、移植手術前に4回、手術後に2回が目安となりますが、必要に応じて増減されることがあります。